

年報

2022 第40号



地方独立行政法人
埼玉県立病院機構



埼玉県立小児医療センター



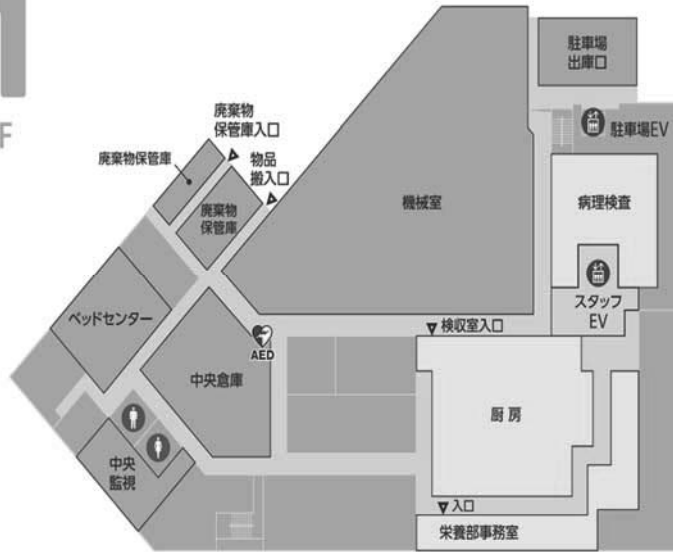
埼玉県立小児医療センター病院の概要

(令和4年4月1日現在)

所在地	埼玉県さいたま中央区新都心1-2 TEL 048(601)2200(代表)
敷地面積	10,031.17㎡
構造	鉄筋コンクリート地下1階/地上13階建て
延べ面積	65,447.69㎡(付加機能 8,745.51含む)
病床数	一般病床 316床
診療科目	総合診療科 新生児科 代謝・内分泌科 消化器・肝臓科 腎臓科 感染免疫・アレルギー科 血液・腫瘍科 遺伝科 循環器科 神経科 精神科 小児外科 移植外科 心臓血管外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 眼科 皮膚科 小児歯科 集中治療科 救急診療科 外傷診療科 麻酔科 リハビリテーション科 放射線科 病理診断科 臨床検査科
紹介等	医師による紹介制
保健発達部	
保健外来	予防接種外来 国際保健外来 心臓検診外来 生活アレルギー外来 遺伝外来 精神保健外来
発達外来	アセスメント外来 発達外来 装具診外来
紹介等	病院、診療所、保健所、学校などからの紹介制

B1

STAFF



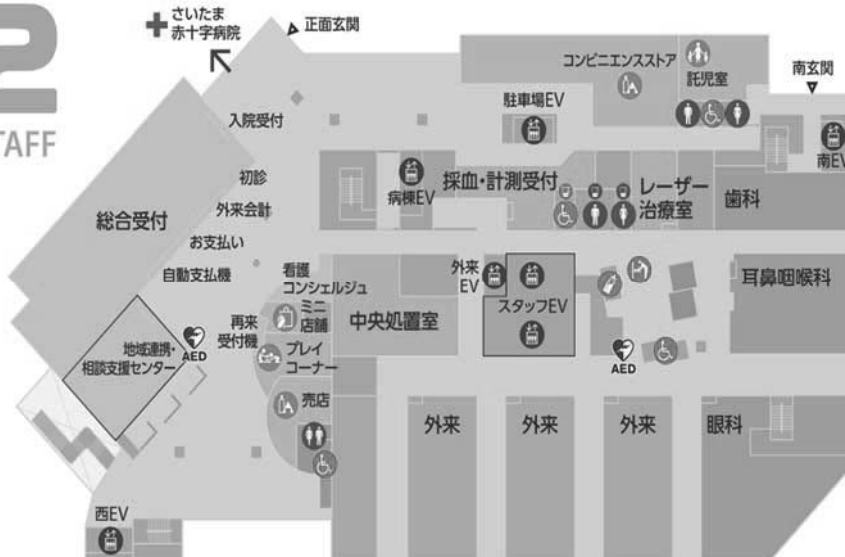
1

STAFF



2

STAFF

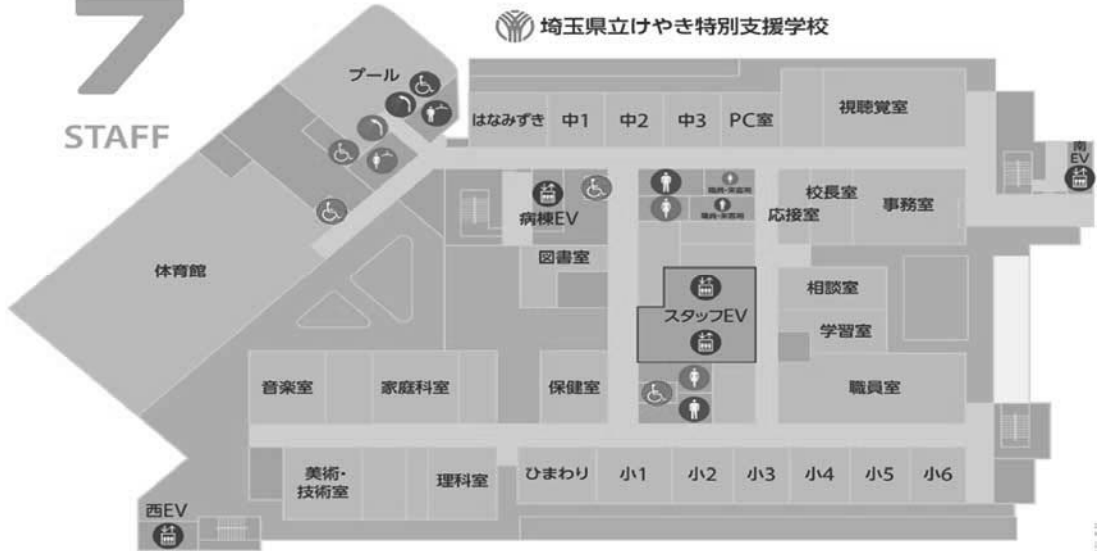




6 STAFF



7 STAFF

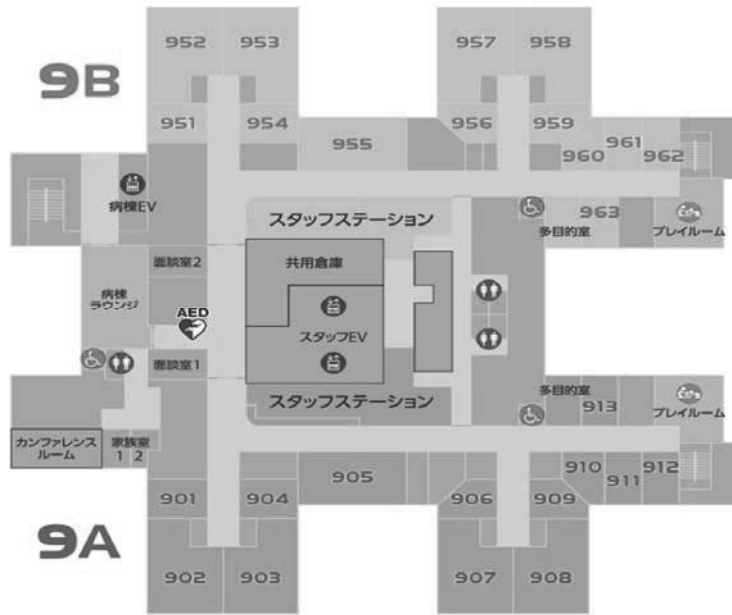


8 STAFF



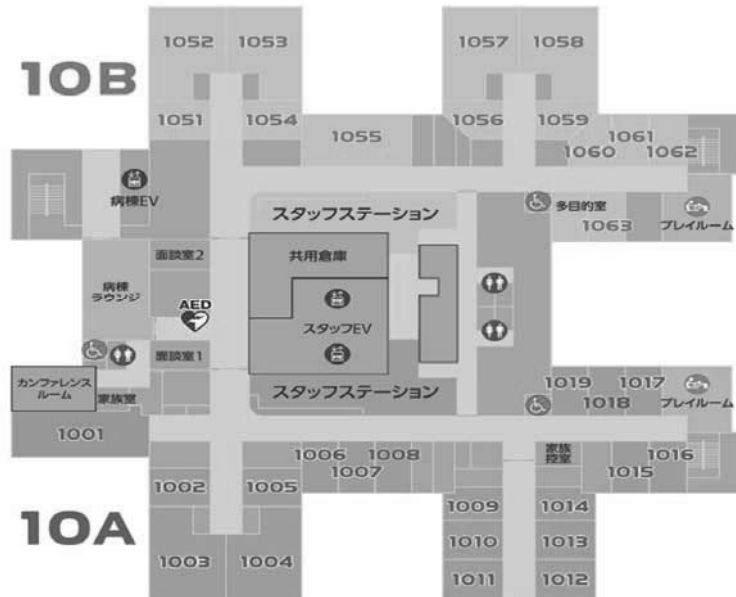
9

STAFF



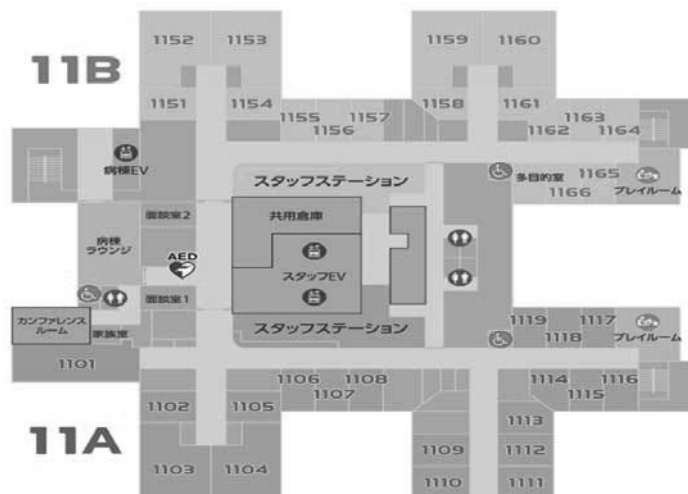
10

STAFF



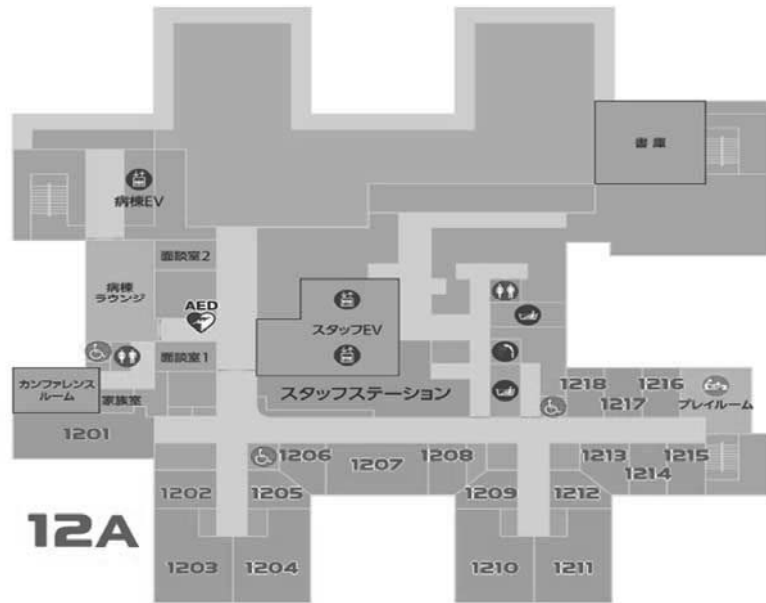
11

STAFF



12

STAFF



はじめに

病院長 岡 明

令和4年度は、県の直轄から地方独立行政法人埼玉県立病院機構へ組織移管2年目となりますが、引き続き小児の高度専門医療を行い、県民の皆様へ安全・安心かつ良質な医療を提供していくことを目標として取り組んで参りました。この法人化によって、県立病院としての当院の役割が変わることはありませんが、医療環境の変化に対して、より迅速かつ柔軟に対応できることを目指しております。

令和4年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症流行の影響が、私たちの生活と当院の診療に大きな影響を与えた1年間でした。特に、前年度の冬以降は、感染した子どもが痙攣、急性脳症、呼吸器症状などを呈しやすいオミクロン株に変化したために、当院にも新型コロナウイルス感染症によって入院するお子さんの数が急増致しました。当院としてはそうした新型コロナウイルス感染流行拡大にも対応しながら、県内で当院が果たすべき高度専門医療、周産期医療、そして三次救急医療など、本来の役割を途切れなく提供し続けることを目標に掲げました。結果として、当院としてはこれまでで最高の病床稼働となり、多くの患者さんに当院での診療を受けていただきました。どの部門も大変に忙しい日々が続く中、濃厚接触となり出勤待機となったスタッフも続出し、現場には大きな負荷がかかりました。県民の皆様の当院への期待に応えようという気持ちで、職員一同、この困難な状況に対応を致しました。県内のどの小児医療施設にとっても大変な時期でしたが、全県の小児医療のネットワークの総力のおかげで、この1年間を乗り切れたと考えております。

感染対策については、新型コロナウイルス感染症の疑いが否定できない発熱などの有症状の患者さんには、必要なPPEをつけての感染対策を継続しましたので、医療者には負担の多い診療が続きました。また、患者さんご家族にもご協力をお願いし、人数や時間を制限させていただくなどのご不便をおかけしました。

令和4年度の診療実績につきましては、新型コロナウイルス感染流行下ではありましたが、入院延べ患者数は95,988人で、前年度より2,819人(3.0%)増、病床利用率は83.2%で、前年度より2.4%増となっております。平均在院日数は12.0日で、前年度より0.1日減となっております。手術件数は4,027件で、前年度より56件(1.4%)増加しております。一人当たりの稼働額単価は110,147円で、前年度より659円(0.6%)減となっていました。外来診療においては、新患者数が13,811人と、前年度に比べて660人(5.0%)増加し、外来延べ患者数は144,018人で、前年度に比べて2,013人(1.4%)増加しました。総じて令和4年度も令和3年度に引き続き、新型コロナ禍前の令和元年に近い形で医療を提供することができました。

以上、埼玉県立小児医療センター年報(2022年版)をお届けするにあたり、当センターの概要をご報告申し上げます。独立行政法人化後も、職員一同一丸となって、安心・安全な医療、高度医療、地域と連携した医療を目指して参ります。そのためには、近隣の医療機関、行政機関、地域住民の皆様など数多くの関係各位のご指導が不可欠です。これからもご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

小児医療センター歴代幹部職員

	センター長		病院長	副病院長	事務局長	看護部長
1983	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	小笠原昭雄	加藤ミチ子
1984	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	浜野信雄	加藤ミチ子
1985	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	松井雅雄	加藤ミチ子
	総長		病院長	副病院長	事務局長	看護部長
1986	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	松井雅雄	加藤ミチ子
1987	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	並木武夫	加藤ミチ子
1988	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	並木武夫	加藤ミチ子
1989	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	古橋司郎	加藤ミチ子
1990	森 彪		河野三郎	山本圭子、赤司俊二	熊倉 勲	加藤ミチ子
1991	森 彪		河野三郎	山本圭子、赤司俊二	大沢 彰	古橋美智子
1992	森 彪		河野三郎	山本圭子、赤司俊二	関根隆俊	古橋美智子
1993	森 彪		河野三郎	山本圭子、赤司俊二	関根隆俊	古橋美智子
	総長	副総長	病院長	副病院長	事務局長	看護部長
1994	河野三郎	山本圭子	赤司俊二		関根隆俊	古橋美智子
1995	河野三郎	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔	井上岩三	牧 満子
1996	河野三郎	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人	井上岩三	牧 満子
1997	植田哲夫	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	井上岩三	牧 満子
1998	植田哲夫	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	石田三郎	牧 満子
1999	植田哲夫	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	石田三郎	近藤よし子
2000	植田哲夫	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	深谷榮作	近藤よし子
	センター長	参事	診療局長	診療局副局長	事務局長	看護部長
2001	植田哲夫	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	深谷榮作	上原敦子
		参事	病院長	副病院長	事務局長	看護部長
2002		山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	北村富士雄	上原敦子
2003		山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人	北村富士雄	野中甲子
2004			赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、野中甲子	渡辺春男	野中甲子（兼）
2005			城 宏輔	佐藤雅人、大野 勉、花田良二、野中甲子	渡辺春男	野中甲子（兼）
2006			城 宏輔	大野 勉、花田良二、中村 譲、野中甲子	陣内 博	野中甲子（兼）
2007			城 宏輔	花田良二、中村 譲、西本 博	陣内 博	柏浦恵子
2008			城 宏輔	花田良二、中村 譲、西本 博	堀越久夫	柏浦恵子
2009			城 宏輔	花田良二、中村 譲、西本 博	堀越久夫	小木曾國子
2010			中村 譲	花田良二、西本 博、大石 勉	堀越久夫	小木曾國子
2011			中村 譲	花田良二、西本 博、大石 勉	北村芳之	小木曾國子
2012			中村 譲	花田良二、西本 博、大石 勉、西ヶ谷正子	北村芳之	西ヶ谷正子（兼）
2013			中村 譲	花田良二、西本 博、大石 勉、西ヶ谷正子	笠原 実	西ヶ谷正子（兼）
2014			中村 譲	花田良二、小川 潔	笠原 実	黒田京子
2015			岩中 督	花田良二、小川 潔	森 美秀	黒田京子
2016			岩中 督	花田良二、ひ、望月 弘	森 美秀	黒田京子
2017			小川 潔	望月 弘、渡邊彰二	阿部 隆	久保良子
2018			小川 潔	望月 弘、渡邊彰二、小熊栄二	阿部 隆	久保良子
2019			小川 潔	望月 弘、渡邊彰二、小熊栄二、黒田京子	加藤 孝之	黒田京子（兼）
2020			岡 明	望月 弘、渡邊彰二、小熊栄二	加藤 孝之	中田尚子
2021			岡 明	渡邊彰二、小熊栄二、浜野晋一郎、中田尚子	千野 正弘	中田尚子（兼）
2022			岡 明	渡邊彰二、小熊栄二、浜野晋一郎、中田尚子	千野 正弘	中田尚子（兼）

埼玉県立小児医療センターの理念

For the future, for the children

こどもたちの未来は私たちの未来

埼玉県立小児医療センターの基本方針

1. 質が高く、信頼される医療を行います。

根拠に基づいた高度で専門的な医療を行います。
地域医療機関での対応が困難な医療を行います。
地域が安心できる小児救急医療を行います。
安全性を優先した医療を行います。

2. 地域との連携のもと小児保健、発達支援を推進します。

子どもたちの健康増進、病気の予防、早期発見並びに発達支援に取り組みます。
地域の医療、保健ならびに療育機関への支援、情報提供を行います。
小児医療、保健に携わるスタッフの育成を支援します。

3. 発育、発達にあわせた良質な環境を提供します。

子どもの生活の場としての良質な医療環境を保障します。
子どもの年齢に応じた遊びや教育の機会(病弱特別支援学校の併設)を確保します。
ご家族のための宿泊を支援します。

4. 子どもの人権を尊重します。

子どもの権利を平等に尊重します。
十分な情報提供と説明を行い、同意のもとでの医療を行います。
身体的にも、精神的にも子どもに負担の少ない医療を心がけます。
入院期間を短縮し、面会時間をできるだけ多くします。
個人情報を守られる権利、診療内容を知る権利(診療録開示)、
他の医療機関の意見を求める権利(セカンドオピニオン)を保障します。

目 次

総 括 編

第1章 沿 革

1 小児医療センター建設までの経緯	1
2 小児医療センター開院から今日まで	1
3 医療法に定める届出承認事項	4
4 健康保険法に定める届出事項（施設基準等）	8
5 専門医教育施設等の認定（更新状況）	16

第2章 施 設

1 敷地及び建物	19
2 附属設備	19
3 主要備品	21
4 小児医療センター医療情報システム	24

第3章 組織・運営

1 機 構	26
2 病棟構成	28
3 診療制度	28
4 会計制度	28
5 運営協議会	29
6 地域医療との連携	29
7 センター内会議及び委員会	31
8 特別支援学校との連携	33
9 地域医療教育センター	33

統 計 編

第1章 診療状況

1 総 括	35
2 外 来	39
3 入 院	41
4 救 急	44
5 手 術	45
6 放射線	46

7	臨床検査	47
8	病理	48
9	薬剤	49
10	栄養	51
11	臨床工学	52

第2章 経営状況

1	経営分析に関する調	53
2	経営的収入及び支出	53
3	資本的収入及び支出	54
4	貸借対照表	54

業 務 編

第1章 診療各科

< 入院患者疾患別内訳 >	55
< 内科系診療部門 >	
総合診療科	57
新生児科	61
代謝・内分泌科	63
消化器・肝臓科	64
腎臓科	66
感染免疫・アレルギー科	67
血液・腫瘍科	70
遺伝科	73
循環器科	76
神経科	78
精神科	82
< 外科系診療部門 >	
小児外科	84
移植外科	87
心臓血管外科	89
脳神経外科	91
整形外科・リハビリテーション科	94

形成外科	95
泌尿器科	97
耳鼻咽喉科	99
眼 科	101
皮膚科	103
小児歯科	104
<中央診療部門>	
集中治療科	106
救急診療科	106
外傷診療科	106
麻酔科	109
放射線科	111
病理診断科	113
臨床研究部	115
第2章 診療技術	
1 放射線技術部門	117
2 臨床検査部門	119
3 薬剤部門	121
4 栄養部門	124
5 臨床工学部門	125
第3章 看護	127
第4章 地域連携・相談支援センター	145
第5章 病 歴	151
第6章 医療安全管理室	152
第7章 TQM推進室	157
第8章 臨床研修委員会	159
第9章 小児虐待対応チーム (Child Abuse Action Team)	160
第10章 栄養サポートチーム (Nutrition Support Team ; NST)	163
第11章 呼吸療法サポートチーム (Respiratory care Support Team ; RST)	164
第12章 感染対策チーム (Infection Control Team ; ICT)	165
第13章 抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team : AST)	173
第14章 治験管理室	176
第15章 図 書	179

保健発達部門編

第1章 概要・機能	181
第2章 小児保健業務	185
1 地域保健業務	185
2 保健教育活動	186
3 保健予防業務	187
第3章 外来業務	189
1 総括	189
2 保健外来	190
3 発達外来	195
4 多職種プログラム外来	197
5 コメディカル業務	198

業績編

第1章 学会発表及び講演	205
第2章 誌上発表	237
第3章 学会・団体等からの表彰	251
第4章 受託研究	252
第5章 他機関との共同研究	254
第6章 委員会（プロジェクト等）の役職	258
第7章 院内研究費による研究	269
第8章 クリニカルカンファレンス記録	270

トピックス編

1 表彰	273
2 ボランティア活動	273
3 院内保育	274

